

令和6年度 教育事業 ボランティア養成事業
「のとボラ養成セミナー」

1 趣旨

ボランティア活動に必要な知識や技能の向上を図り、ボランティアとしての資質を高め、広く社会でボランティア活動に取り組める青少年を育成する。

2 日程

(1) 期 日 令和6年5月25日(土)～26日(日) 1泊2日

(2) 参加者 大学生59名(男性13名、女性46名)、高校生4名(男性1名、女性3名)

(3) 研修内容

5月25日(土)		5月26日(日)	
9:00	受付	6:00	起床
9:30	開講式		身辺整理、清掃
9:45	講義「青少年教育施設の現状と運営」 兼アイスブレイク	7:00	朝のつどい
11:00	講義「青少年教育」	7:20	朝食
12:40	昼食	8:40	宿舎点検
13:30	講義・実習「安全に活動するため に～救急救命法～(安全管理)」	9:00	講義「ボランティア活動の意義」
16:45	実習「初めての野外炊事(ボランテ ィア活動の技術)」	10:45	能登事業紹介(青少年教育施設にお けるボランティア活動)
20:45	交流タイム(青少年教育施設におけ るボランティア活動)		ボランティア制度の説明(青少年教 育施設におけるボランティア活動)
21:30	入浴	12:00	昼食
22:30	就寝	13:00	閉講式
		13:30	解散

3 成果と課題

(1) 活動プログラムの実際

- ①救急救命法では、羽咋郡市広域圏事務組合消防本部から8名の指導者を派遣していただき、全ての活動班に一人ずつ指導者を配置することができた。心臓マッサージやAEDの実習時間を十分に取り、全員で実施することができた。
- ②「ボランティア活動の技術」では野外炊事を行った。活動前に、実際の指導時での安全管理を考えてもらい、ボランティアとして事業に参加したことを想定して、参加者が意見交換をしながら実施することができた。

(2) アンケート結果について

- ①教育事業アンケートの満足度(「満足」の評価)は、「事業全体」「事業プログラム内容」「職員の指導・助言」の3項目において100%の高評価であった。その中で、「とても満足」の最高評価は3項目全て90%を超えた。「オンラインでの講義運営」についての「とても満足」の評価は46%であり、「満足」が51%、「やや不満」が3%であった。
- ②アンケートの記述には「子どもたちの初めての体験に寄り添うことができるボランティアになりたい」「野外活動には人と関わり、仲を深める力があることが分かった」「野外活

動では自分から動く自立のきっかけとなる力が身につく」という感想があった。宿泊をしながら、野外活動に取り組むプログラムには肯定的な意見が多く寄せられた。

(3) 成果と課題

① 成果

- ・今年度の広報では、大学へ出向等して直接広報に力を入れた。教育学専攻がある金沢大学と金沢学院大学では講義のはじめに時間をいただき、教育学部の1、2年生全員にチラシの配布と内容の説明をすることができた。また県内の6つの大学（石川県立看護大学、金沢大学、金沢学院大学、金沢星稜大学、北陸大学、北陸学院大学）には、全学生に事業案内文をメール配信していただいた。高校生への広報は、羽咋市以北の8つの高校にチラシの配布を依頼した。結果、高校生から4名、大学生から74名の応募があった。
- ・「事業を知った理由・方法」をアンケートで調査した結果、「講義での直接広報」が37名、「友人の紹介」が14名、「メール」が5名であり、直接呼びかけることが最も効果的であることが分かった。
- ・「青少年教育」と「ボランティア活動の意義」では、オンラインで国立若狭湾青少年自然の家と研修会場をつなぎ講義を実施した。ボランティアに興味のある受講生同士をつなげることができた。

② 課題

- ・オンラインでの講義は、電波状況が悪く聞こえにくい時があった。アンケートからは、「話を聞く時間が長く感じた」「画面の向こうの様子が分かりにくかった」という回答があった。通信環境を整えていく必要がある。
- ・高校生の参加者を今後増やしていくことが必要である。次年度に向けての検討事項であるが、チラシを配布するだけでなく、直接広報する場を増やす必要がある。

4 事業の様子



【講義の様子】



【救急救命講習】



【野外炊飯】



【アイスブレイク】



【集合写真】